

補助事業番号 20-142

補助事業名 平成20年度産業高度情報化促進支援等補助事業

補助事業者名 社団法人日本情報システム・ユーザー協会

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

機械工業を含む日本産業全体が、更なる国際競争力を強化させるためには、更にITを有効活用し、いかにイノベーションを起こしていくかが重要になってきている。グローバルな競争激化、新たなリスクと新たなビジネスニーズの増大等、新たな経営課題が山積しており、その解決には情報化推進、情報活用が欠かせないということは言うまでもないが、これまでの取り組みや方法論だけでは対応が難しい状況となっており、社会全体での成功事例の共有が重要となっている。

本事業は、ITガバナンス普及の観点から、一方向の情報の伝達から、ユーザー企業参加型のインタラクティブな情報交換の場（スクエア）を、経営課題をかかえるITユーザー企業とその支援を行うIT企業等に提供し、産業の高度情報化を促進し、もって機械工業の振興に寄与することを目的としている。

(2) 具体的な実施内容・成果

①「サマーステージ」:

7月4日（金）、5日（土）の2日間、京都ホテルにて開催し、約140名の参加があった。オータムステージのディスカッションテーブルを見据え、ITユーザーの共通課題である、以下の7つのテーマ別にグループ討議を実施した。

「オープン化の功罪」

「人材育成～ビジネスイノベーションに貢献するIT部門となるために」

「経営と現場をつなぐITとは」「I（愛）Tは、地球と経営を救う～グリーンIT」

「新たな時代の情報子会社の役割と人材」

「情報システム子会社の将来：自律した情報システム子会社に必要リスク管理」

「魅力ある産業となるために～情報子会社の価値創造戦略」

②オータムステージ：JUASスクエア「ITガバナンス2008」

～ビジネスイノベーションへの貢献～

9月3日（水）・4日（木）の2日間、JUASスクエア「ITガバナンス2008」を、ハイアットリージェンシー東京（東京・新宿）にて開催した。事前登録者数は838名、また2日間でのべ参加者数は1,338名となり、ともに2007年度の3割増の参加人数となった。

今年度は、「ビジネスイノベーションへの貢献～ビジネスプロセス革新を支え

る IT」をテーマに設定し、これからの IT 部門の活動のあり方を問うた。

基調講演、ユーザーとベンダーの経営者が異なる立場から議論する特別パネル、産官学の立場から IT 経営の本質を議論した CIO パネル、また、「新ビジネスモデル・価値の創造」「ビジネスプロセスの革新」「IT 組織の革新」についての事例紹介やコンサルティングセッションを実施した。例年好評の参加型公開討論会「ディスカッションテーブル」では、有意義な議論が展開されたとともに、JUAS 研究プロジェクト報告では、新たな知見が公開された。

初日の基調講演は、カブドットコム証券株式会社 取締役代表執行役社長の齋藤正勝氏を迎え、『IT 経営の実践～「見える（可視）化から「見せる（開示）化」へ』というテーマで講演をいただいた。

また、初日はアサーションセッション（特別パネル）を実施した。

『CIO が舵を切る ビジネスプロセス革新の鍵とは？』と題し、株式会社ファーストステイリング 執行役員 岡田章二氏と、株式会社 NTT データ 取締役常務執行役員の荒田和之氏のパネルディスカッションを実施し、ビジネスイノベーションに関する討議を深めた。

2 日目の基調パネルには、『日本企業の未来を占う「IT 経営」の本質とは？』をテーマに、株式会社リコー 取締役副社長執行役員 遠藤紘一氏、茨城大学 准教授の後藤玲子氏、経済産業省 商務情報政策局サービスユニット文化情報関連産業課長 村上敬亮氏の産官学からの立場でパネルディスカッションをいただいた。

さらに、本年は特別講演として、一橋大学イノベーション研究センター長・教授の米倉誠一郎氏に「イノベーションだけが未来を拓く」という講演をいただいた。また、ビジネスイノベーションにおける「顧客志向経営/新ビジネスモデル・価値の創造」「ビジネスプロセスの革新」について、あるいはビジネスイノベーションを支える「IT の革新を実現する新しい技術と手法」「企業風土・IT 組織の革新」についての事例紹介とコンサルティングセッションを実施した。

さらに、参加型の公開討論会「ディスカッションテーブル」では、サマーで事前討議したテーマについて有意義な議論を実施できた。サマースクエアで事前に討議された論点、議長団を中心とした事前のミーティングにて検討された課題を討議するとともに、参加した方からも活発な意見が出て、充実したディスカッションが展開された。

プログラムの詳細は、下記を参照。

<http://www.juas-square.com/>

カンファレンス形式の情報提供を実施した結果、極めて大きな反響を得た。

特に、オータムステージは、これまでの実績と充実したプログラム構成により、800名を越す事前登録者があり、また、当日の来場者数も2日間合計で1,338名に達した(来場者数2日間合計 1,338名：9月3日：696名、9月4日：642名)。

特に反響の大きかったプログラムは、公開討論会「ディスカッションテーブル」で、定員150名ほどの会場が満員になった回もあり、テレビ中継を実施した。参加者の満足度も高く、ユーザーが自分達の意見を発する場として、本年度も一定の評価を得ている。

これに加えて、ユーザー企業のIT責任者が自らの経験を踏まえて事例を講演するプログラム、および、アカデミーを含む専門家が、専門的見地から課題を整理・アドバイスするプログラムを複合して提供し、参加者からは高い評価を得ており、参加者アンケートでは9割以上が「知人、同僚に推薦したい」と回答している。

2. 事業実施効果

ビジネスイノベーションステージの開催事業

産業の競争力強化は個々の企業、産業の努力はもとより、企業間、産業間の連携や協同が必要である。

本事業を通じて、競争力強化に寄与するIT活動に関してユーザーとベンダーとの連携と協同のあり方が示されたことにより、ユーザー、ベンダーともに今後の経営革新への多くの示唆を獲得した。

3. 本事業により作成した印刷物

ビジネスイノベーションステージの開催事業：DM、プログラムガイド、テキスト

4. 補助事業者連絡先

団体名	社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 (ニホンジョウホウシステム・ユーザーキョウカイ)	
住所	〒103 - 0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-10-11	
代表者	会長 石原 邦夫 (イシハラクニオ)	
担当部署	事務局長	
担当者名	三木 徹 (ミキトオル)	
電話番号	03-3249-4101	
FAX	03-5645-8493	
URL	http://www.juas.or.jp	
E-mail	miki@juas.or.jp	以上